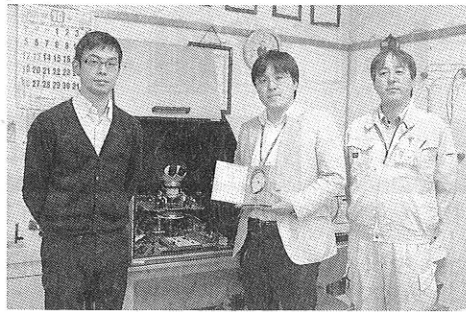


平成26年（2014年）10月28日（火曜日）（3）



# 技術者の育成へ生かしたい

有明高専の石川准教授ら

## マツダ財団の研究助成に採択

大牟田

大牟田市東萩尾町、有明工業高等専門学校（福島健郎校長）電子情報工学科准教授の石川洋平さん（36）らによる共同研究が公益財団法人マツダ財団の第三十回研究助成の対象に選ばれ、このほど同校で助成金の贈呈式が行われた。計測、検証を重視した教育手法を評価されたもので、石

川さんは「自分の仕事に最後まで責任を持つ技術者の育成に生かしたい」と意気込んでいます。【写真】

同財団の研究助成は全国の大学と研究機関を対象に、科学技術に関する基礎研究および応用研究に対して行われている。同校の研究が選ばれたのは今回が初めて。式では助成金百二十万円と置き時計付きの贈呈書が贈られた。

採択された研究のテーマは「アナログ集積回路（IC）の「検証」に着目した

技術者教育手法に関する研究」で、石川さんと電気工学科講師の清水暁生さん（30）、教育研究技術支援センター技術専門職員の荻島真澄さん（39）の共同研究。

多くの大学、高専では設計を教えるところで終わってしまい、出来上がった物がきちんと動作するかを計測、検証するところまで至っていない現状に着目。同校では検証までできる人材育成を目指して環境整備や指導を行っており、その成果の一端として石川研究室

からは演算増幅器設計コンテストの入賞者を多数輩出。そのノウハウを他の大学や高専と共有することを目的に研究を始めたという。

今回の助成では二十五件が選出されたが「教育手法」をテーマにしたのは石川さんらの研究のみ。『作りっぱなし』では駄目。今後は作った物に最後まで責任を持つ学生を育てるプログラムをつくっていきたい」と石川さん。助成金は新たな計測機器の購入に活用する予定。